

演題名:

新鮮、凍結融解（自然、ホルモン補充）胚移植 8467 周期における方法別周産期合併症頻度の比較検討

藤岡 聡子¹⁾ 小西 晴久²⁾ 寺脇 奈緒子³⁾ 福田 愛作¹⁾ 森本 義晴³⁾

1) IVF 大阪クリニック

2) IVF なんばクリニック

3) HORAC グランフロント大阪クリニック

【緒言】わが国では凍結融解胚移植による妊娠が ART 妊娠の 84% を占めるが、ホルモン補充周期では自然排卵周期と比較し癒着胎盤のリスクが高率であることが報告されている。そこで当グループで胚移植後生産にいたった 8467 周期について胚移植法別に周産期合併症発症率に差があるのか検討を行った。

【方法】2015 年 1 月から 2022 年 6 月までに胚移植実施後生産にいたった 8467 周期：新鮮胚移植（Fresh 群）1076 周期、自然排卵周期凍結融解胚移植（NC 群）2223 周期、ホルモン補充周期凍結融解胚移植（HRC 群）5168 周期の 3 群間で癒着胎盤、前置胎盤、低置胎盤、常位胎盤早期剥離、弛緩出血、子宮破裂、羊水塞栓、母体輸血、妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群の発症率を後方視的に検討した。また、それぞれの合併症発症との関連が示唆される要因（分娩歴、出産時年齢、在胎週数、分娩様式、移植時内膜厚、BMI）を含めて多変量解析を行った。

【結果】癒着胎盤の発症率は Fresh 群 1.1% vs NC 群 1.6% vs HRC 群 5.1%、弛緩出血は Fresh 群 3.2% vs NC 群 3.7% vs HRC 群 9.0%、妊娠高血圧症候群は Fresh 群 6.2% vs NC 群 5.6% vs HRC 群 10.8% と 3 つの合併症について HRC 群が Fresh 群及び NC 群に比べ有意に高率であり ($p < 0.0001$)、多変量解析においても Fresh 群・NC 群に比べ HRC 群では発症のオッズが有意に高かった。一方、前置胎盤、低置胎盤、常位胎盤早期剥離、子宮破裂、羊水塞栓、母体輸血、妊娠糖尿病の発症率は 3 群間で有意差を認めず。前置胎盤、低置胎盤、常位胎盤早期剥離、妊娠糖尿病は多変量解析においても Fresh 群・NC 群に比べ HRC 群での発症オッズの有意な上昇や低下を認めなかった。子宮破裂は HRC 群で 2 周期、羊水塞栓は NC 群で 1 周期、HRC 群で 4 周期、母体輸血は Fresh 群で 1 周期、NC 群で 2 周期、HRC 群で 14 周期と圧倒的に HRC 群が多かったが、数が少なく多変量解析は行え

【結論】ART 妊娠において周産期合併症を回避するために、可能な限り新鮮胚移植もしくは凍結融解胚移植の場合には自然排卵周期を選択するべきだと考える。